

榊原病院

Monthly

Vol.62
2023.April

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)
1962年生まれ
1991年富山医科薬科大学医学部卒
1996年同医学部大学院卒
2014年国立病院機構北陸病院精神科部長
2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。
日本司法精神医学会理事。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 175床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

第18回医療観察法関連職種研修会開催のご案内

心理療法士 高野 真弘

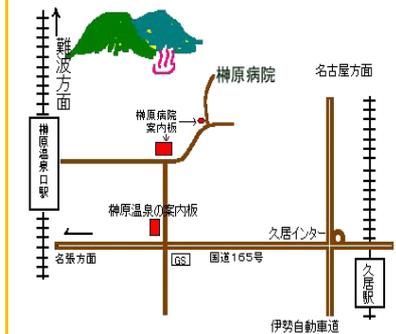
昨年度は各関係機関・地域の皆様には大変お世話になりました。今年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

さて、当院は心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（以下、医療観察法）の指定入院医療機関です。医療観察法で行われる医療の目的は大きく分けて3つあり、①他害行為を行った際の症状の改善・②再他害行為防止・③社会復帰となっております。社会復帰をすすめるにあたって、指定通院医療機関や地域関係機関の方と十分協議を重ね、治療の進捗状況とともに支援体制の構築をもって最終的な判断を裁判所に求めます。現在、当院のような指定入院医療機関は全国に34か所あり、指定通院医療機関についても各都道府県で選定されております。

今回当院が幹事病院として担当する関連職種研修会とは、医療を受けている方と各指定入院・通院医療機関や地域関係機関が行なっている取り組みを共有し、関係者の交流を深める場となっております。今年で18回目を迎えます。今回の研修内容としましては、『基調講演』・『COVID-19下での取り組みについて』・『各施設での取り組みについて』・『事例検討』・『一般演題』・『質問コーナー』・『研究班報告』という内容を考えております。

ここ数年はCovid-19の影響もあり、オンラインでの開催でしたが、今回は集合研修にて7月14日(金)・15日(土)で開催予定です。詳細は当院ホームページに掲載しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。関係者の皆様におかれましては、参加登録・演題登録のほど、お待ちしております。

なお、医療観察法で行われる医療は、医療観察法附則第3条に『精神医療等の水準の向上』と明記されており、精神医療全般への一般化も謳われております。引き続き、精神保健福祉全般に還元できるような取り組みを行いながら、地域に根差した病院となるようこれからも邁進していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス
(車庫前行き) 約30分
自動車/ 久居インターより約20分
マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和5年3月までに全症例は138例となりました。新規導入は3月は1例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内



デイケアは南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。

日中に通う場所を持つことで、生活リズムを整えたり、仕事や作業に通う体力を獲得したりする効果があります。それぞれの方がリカバリーに向けて、プログラムに取り組んだり、他の方々と一緒に活動したりして、進んでいかれます。

デイケアを利用してくださる方は、1日あたり10人～20人です。体を動かすこと、アートや手芸などの創作をすること、おしゃべりやカラオケを楽しむこと、健康やコミュニケーションの学習をすることなど、様々なプログラムがあります。デイケア室を利用して休息したり、本を読んだり、ご自身のペースで過ごしておられる方もいます。

興味を持たれた方は、ぜひ一度見学にお越しください。



今の花壇の様子です。種から育てたピオラが大きくなりました。



みんなが三重県“特色”地図を作りました。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



栄養コラム



腎臓のはたらきについて

腎臓の働きには、主に5つあります。尿をつくる、血圧の管理をする、血液をつくる働きを助ける、ビタミンDの活性化、体内の微量元素を均衡に保つ働きがあります。腎臓が悪くなると貧血になったり、おしっこが出なくなったり、血圧が高くなります。「日本人の食事摂取基準(2020年版)」では、食塩摂取量の目標は1日当たり男性7.5g未満、女性6.5g未満としています。実際の日本人の食塩摂取量はというと、10.1gです。海外では、アメリカ9.0g、イギリス8.0g、フランス7.5gです。日本の食文化や調理方法が影響していると考えられています。ちなみに、加工食材の栄養成分表に「ナトリウム」とだけ表示しているものもありますが、実はナトリウム=食塩ではありません。ナトリウム(mg)×2.54÷1000したものが食塩量となります。ナトリウム400mgはおおよそ1gの食塩であると覚えておきましょう。